

平成27年度第2回千葉県地域リハビリテーション協議会
開催結果概要

- 1 日時 平成28年3月15日(火) 午後1時30分～3時00分
- 2 会場 千葉県教育会館 203号室
- 3 出席者 協議会員総数16名中14名出席
荒井泰助氏、石山明子氏、薄直宏氏、栗原正彦氏、小坂重樹氏、酒井譲氏、
坂本泰啓氏(代理)、須藤和晃氏(代理)、橋野恭子氏、村田淳氏、茂木優希氏、
山崎潤子氏、吉永勝訓氏、李笑求氏 (50音順)
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 議題
千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動結果について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 5 会議結果概要
 - (1) あいさつ
健康づくり支援課瀧口課長よりあいさつ
 - (2) 議題
「千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動結果について」
平成27年度千葉県地域リハビリテーション支援センター・地域リハビリテーション広域支援センター実績報告書(資料1)を用いて各センターより、実績報告を行った。

【県支援センター発表】

(質疑なし)

【千葉・東葛南部・東葛北部圏域発表】

＜荒井協議会員＞

千葉中央メディカルセンターと旭神経内科リハビリテーション病院に伺うが、相談窓口の設置・周知をどの様に行っているのか教えて欲しい。

＜千葉中央メディカルセンター＞

通常MSWが所属する総合相談サービスセンターで可能な限り対応し、困難なものは院内で相談している。周知は、マンパワーの関係で広域支援センターとしては積極的には行っていない。

＜旭神経内科リハビリテーション病院＞

窓口は設置していないが、事務局の相談員へ相談が来る。電話やFAX以外にも院内で声を掛けられ相談に乗ることもある。積極的に周知している訳でなく、研修会参加者などからの相談がほとんど。

＜薄協議会員＞

研修については圏域でそれぞれ特色があるが、内容を決めた理由について教えて欲しい。

＜千葉中央メディカルセンター＞

前年度の研修会でのアンケート結果や、事務局スタッフの興味のある内容や、今まで取り上げて来なかった内容などから決めている。

＜新八千代病院＞

研修会でのアンケート結果や年1回開催している連絡協議会での意見を基に決めている。

<旭神経内科リハビリテーション病院>

地域づくりを目指しており、リハ職の居ない施設や民間の方にリハビリの概念を知ってもらうことを目的としている。また、回数を多くし終了後実際のボランティア活動に繋げるよう考慮し開催している。

<須藤協議会員代理>

旭神経内科リハビリテーション病院はボランティアの養成研修会を行っているという事だが、例えばどこまで身体介護として関わるのかなど線引きや基準はあるのか。

<旭神経内科リハビリテーション病院>

グループ分けしたのは、様々な職種の興味のある範囲が異なったため。身体介護では、施設で働いている介護職員を対象として、いずれはボランティアの会のリーダーとなる人材として養成することを目指している。そのため、今後3年程度かけ連絡協議会の立ち上げ等にあたり我々がアドバイスしていく。その他の健康体操・認知症リハビリでは、参加者が民生委員やボランティアが中心なので、現に参加している体操教室へリハビリの概念を入れて頂くよう介入している。

【印旛・香取海匠・山武長生夷隅圏域発表】

<李協議会員>

訪問リハ支援班研修会について、具体的にどの様な反省点・課題が上がったのか。

<旭中央病院>

訪問リハ支援班の研修は、支援班を構成する近隣施設のリハ職が企画し実施しており、今回の研修は佐原中央病院が企画した。内容としては現状と課題についてのグループワークであり、訪問リハに従事しているリハ職員と病院のリハ職員との情報共有や、ケアマネとも連携し地域で進めて行かなければならないとの内容であったと聞いている。

<李協議会員>

訪問リハとは、リハ医療機関が独立して行うものと考えているのか。介護等の横との連携を取らずに、リハビリの知識だけで進めようとする地域事情がわからないなどといった問題点があるのではないか。

<旭中央病院>

それぞれの立場を知るという点では、研修会は訪問リハ職員だけでなく、病院の看護師や地域包括の職員にも参加して頂いているので、その中で連携をとっている。

<荒井協議会員>

成田赤十字病院は施設訪問でどの様な情報交換を行ったのか。また、公立長生病院は、茂原市と山武郡横芝光町へ訪問しているが、圏域内のこの市町を選んだのには何か理由があるのか、市町村が何か動き出しているなどあれば教えて欲しい。

<成田赤十字病院>

回復期リハビリテーション病棟の実際の受け入れ可能人数や看護職の人員配置等について意見交換を行っている。

<吉永会長>

訪問人数とは実際に訪問した人数なのか。

<成田赤十字病院>

実際に訪問した人数である。佐原中央病院には、毎年、広域支援センターの業務として当院の看護師、リハ職、MSW、医師が訪問を行っている。

<吉永会長>

そこでの情報は急性期病院等へ情報提供が行われているのか。

<成田赤十字病院>

他の病院やケアマネから問い合わせがあった際に情報提供している。

<公立長生病院>

圏域が広いので、できるだけ18の地域包括支援センターを平均的に訪問する事を心がけており、電話連絡をし研修会を持ちかけている。

【安房・君津・市原圏域発表】

＜吉永会長＞

亀田総合病院のJRの研修会への講師派遣だが、どの様なきっかけで講師派遣する事となったのか。

＜亀田総合病院＞

鴨川市とJRとの相談の中で、理学療法士という職があるという話になり声が掛った。実際に駅でない所で電車が停車してしまい、乗客を降ろすのに大変苦労したことがきっかけとなり、JR職員で方法を検討する上でアドバイスをした。

＜吉永会長＞

亀田総合病院に相談があったのか、それとも広域支援センターに対して相談があったのか。

＜亀田総合病院＞

広域支援センターに相談があった。

＜小坂協議会員＞

JRから鴨川市健康推進課に相談があり、その後市から広域支援センターに対し相談した。

＜栗原協議会員＞

白金整形外科病院へ伺うが、多くの研修や派遣等は素晴らしい取組と思う。育成・支援事業のインストラクターの養成について、内容を教えて欲しい。

＜白金整形外科病院＞

主催は市原市であり、インストラクターとなる市内のリハ職に対していいあんばい体操を教えた。

＜薄協議会員＞

白金整形外科病院は人的な面での工夫はあるのか。

＜白金整形外科病院＞

基本的には広域支援センターで対応できる範囲で行っているが、ちいき会で知り合った方にも協力を頂いている。

＜薄協議会員＞

多くの組織があるが、その結びつきはどうなっているのか。

＜白金整形外科病院＞

ちいき会をベースに連携を広げている。

＜吉永会長＞

各圏域で地域の病院に協力を仰いでいる所も多いのでは。限られた予算の中で事業そのものを広げていくという事を県でも考えている様である。

○その他

＜薄協議会員＞

ネットワーク事業から育成・支援事業、啓発・状況提供へ繋がって行く事が望ましいと思う。また、ホームページの更新が行われていないセンターもあるので、せっかくなので有効活用して欲しい。

＜小坂協議会員＞

地域ケア会議に参加しているところはあるか。

＜吉永会長＞

ない様だが、地域ケア会議に広域として参加を呼び掛けている所はいくつかある様である。